



障害者や高齢者らと一緒に「デザイン」

あらゆる人に使いやすい商品を開発する「インクルーシブデザイン」が注目を集めている。英国発祥の手法で、問題発見力を高め、他者への思いやりの心を育む効果があるという。体験教室を訪ねた。

(清水麻子、写真も)

他者の気持ち

「目が見えないと、どれが絆創膏の箱なのか、お菓子の箱なのか分からない。どんな工夫があればいいかと思つた」「箱じゃなく、ポケットティッシュのような絆創膏入れがあればいいんじゃない?」

東京・渋谷で8月下旬、「インクルーシブデザイン・ソリューションズ」(東京都千代田区)が主催する親子体験教室。参加した小学生らが講師役の視覚障害者と一緒に、目が見えない人でも使いやすい絆創膏はどのようなものか考えた。参加者たちは講師の近く



視覚障害者の講師(右)と一緒にインクルーシブデザインを学ぶ子供たち =8月、東京都渋谷区

に座り、講師が絆創膏を貼るとき、どのような様子に注意深く見るといいかを説明する。「小さいと貼りにくそう」「目が見えないと、絆創膏を貼るとき、どのような困ったことに直面するか想像し、感じた点を黄色い付箋に記入する。次のステップでは、どう

教育に応用 思いやり育む効果

したら使いやすいくなるかなどの改善点についてアイデアを出し合い、青色の付箋に書き込む。昼食時には講師と買い物に出掛け、障害者が感じる不便さへの「気づき」を深めた。

小学3年と6年の娘と参加した千葉県佐倉市の会社員、清水真理さん(41)は「世の中にはいろんな人がいて、他者の気持ちに気づくことの大切さを学ぶことができた」と話す。

納豆やATM

身の回りのものの中には、障害者や高齢者が使いにくいものがたくさんある。それは健常者の発想で企画開発されているからだ。

2000(平成12)年、英国の王立芸術院で、障害者らに商品開発の初期段階から積極的に参加してもらい、一般人にとっても魅力的なものを新しく作り出す考え方「インクルーシブデザイン」の研究が始まった。

全国の小学校でも体験会

「インクルーシブデザイン・ソリューションズ」は、インクルーシブデザインの体験会を全国の小学校で開催する意向だ。東京近郊なら無料で、遠方場合は交通費のみでそれぞれ実施することが可能という。「興味のある学校や教育委員会があれば、ぜひ連絡してほしい」と同社の井坂社長。

大人やビジネスパーソン向けの体験会は月2回、名古屋商科大学院東京丸の内キャンパスで開催。参加費6300円。次回は9月20日、10月10日の開催を予定している。問い合わせは☎03・6268・8028。

近年は日本の大学でも研究が進んでいる。

この手法を使って開発された商品の中には、片手が不自由でも簡単にタレを混ぜられるシェルフ付き納豆のほかに、背が低い高齢者や車椅子利用者でも、低い位置で簡単に操作ができるATM(現金自動預払機)などがある。

さらに、デンマークなどの北欧では、小学校教育にもインクルーシブデザインも考え方が応用され、子供

たちが互いの多様性を理解する術として役立てられている。日本国内では教育への実践例はほとんどなかったが、「他者を理解できる大人を増やしたい」との思いから「インクルーシブデザイン・ソリューションズ」が子供への教育用に企画した。

同社の井坂智博社長(49)は「固定観念がない子供はすべ障害者と友人になれる。一緒に過ごすうちに、社会には自分と違う人がいることを理解する。想像力を養うほか、思いやりの心を育む観点からもメリットが多い」と話している。

媒体名：産経新聞

掲載日：2012年9月12日(水曜日)

株式会社ファミリーネット・ジャパン(FNJ)様と小学生向け夏休み親子体験会を共同開催。FNJ様の会員向けに実施し、会員(お客様)との接点作りを強化。また、子どもたちへ想像力や相手を思いやる心を育む機会をIDSとしてサポートした。